

約 14 億の人々が極度の貧困状態 (1 日 1.25 ドル未満、なお 2 ドル未満では 25 億人 (2005 年人間開発報告書)) の中で生活し、富裕国と貧困国との格差は拡大し続け、先進国内の貧富の差も拡大し続けている現状において、貧困は国際政治経済問題の大きな領域である。本講義では、概説、第三世界都市貧困の現状、貧困者自身の様々な創意工夫のある試み・主体的運動及びその可能性、貧困解消に取り組む住民・NGO・国家・国際機関の役割について、貧困者の視点から現実を紹介しながら論じる (時間があれば先進国内の貧困問題等についても考察してみる)。

**【評価方法】** [出席 (25%) と試験 (75%)] または [出席 (25%) とレポート (75%)] で評価する。どちらにするかは初回に希望を聞く。試験の場合は期末試験中に持ち込み不可で行う。レポートの場合は、講義を 3 回より多く欠席したものは、理由の如何を問わず、レポートの提出資格を失うものとする。レポートは 2 種類(以下 A, B)提出する必要がある (提出時にホッチキス等でまとめておくこと)。A は各回の講義ごとにその中で自分が学んだことを 300 字以上でまとめて、最後にまとめて提出する。B はレポート執筆要領による。

**【テキスト】** 幡谷則子、下川雅嗣 [編著] 『貧困・開発・紛争：グローバル／ローカルの相互作用』(地域立脚型グローバル・スタディーズ叢書第 3 巻) 上智大学出版会・2008 年。

\*その他の参考文献は、参考文献表及びその都度紹介する。

**【授業計画】(下記は主な項目予定であり、必ずしもこの順序で進めるとは限らない)**

1. イントロダクション、貧困の定義
2. 第三世界の貧困問題概説
3. 貧困と貧富の格差、貧困の罍
4. アジアの都市貧困層の現状と開発政策における位置付け

**<アジアの貧困者の厳しい現実>**

5. 開発と都市貧困層 (アジアの例)
6. 政府開発援助 (ODA) による大規模プロジェクトと貧困層/居住権
- 7 開発政策・貧困解消政策の方向性(住民、NGO、国家、国際機関の役割)

**<アジアの都市スラムの人々の可能性>→タイ、インド、パキスタン、カンボジア、インドネシア、フィリピン、韓国等の事例を中心に。**

- 8 アジアの都市スラムの人々の可能性 I:土地・住居へのアクセス
- 9 アジアの都市スラムの人々の可能性 II:貧困者居住運動
- 10 アジアの都市スラムの人々の可能性 III:信用・市場へのアクセス
- 11 アジアの都市スラムの人々の可能性 IV:貧困者経験交流、エンパワーメント
- 12 アジアの都市スラムの人々の可能性 V:貧困者のスペースの拡大と People's Process
- 13 貧困者の歩み (People's Process) の発展:新たな発展 (開発) モデルを求めて I
- 14 貧困者の歩み (People's Process) の発展:新たな発展 (開発) モデルを求めて II